

特集 森を生きる



世界に生息する全ほ乳動物の12%、全顕花植物の10%、また、世界の第3位の熱帯雨林面積がインドネシアに存在する。だが近年、材木やチップ材目的の不法伐採、石けんや食用油等の目的のアブラヤシプランテーション、人為的および自然災害による広域な森林火災、貴重種の売買などにより、かつて豊かだった森林環境は、急速に低下し続けている。世界に誇る生物多様性の宝庫と言われる、インドネシアの自然環境を未来へ持続的に保全して行くことが、地球市民の喫緊の課題となっている。

経済成長の影にあるもの

インドネシアは、人口約2億人の多民族国家で、1万5千の島々から構成される。GDPがこの10年で3倍になるほどの驚異的な経済成長を遂げた。豊富で多種類の天然資源の埋蔵量、安い人件費、広大な安価な土地など、投資や企業進出のチャンスが多いことから、日本はもちろんのこと米国、オーストラリア、フランスなど、数々の先進国が機運を伺っている。ベトナム、インドに並び、今後の経済成長の著しい発展が期待される国である。だが、華やかな経済発展への期待の裏側で、実際の国民の生活状態を見ると平均月収は5千円〜2万円であり、これは1日の生活が1・25米ドル以下を最貧困層、2米ドル以下を貧困層（世界銀行）とも、どこかの新聞記事では年収30万円以下を貧困層とも言われるが、インドネシアの多くの国民はこれに近い生活を送っていることになる。著しい経済発展とは無縁の森林地帯に住む住民は、上述の様な深刻な森林伐採の影響を目の当たりにし、かつ、荒廃した土地の再生を自力で



アグロフォレストリーの作業風景

アグロフォレストリープロジェクト in インドネシア
《インドネシア政府認可環境財団 バリバイオダイバーシタス》 日本窓口 黛 陽子(博士・環境学)

住民主導で取り組む持続的な生物多様性保全への挑戦



木祖村・日進市合同育樹祭



育樹祭開会式

和区桜山商店街にはアンテナショップ「さくらやまーけつと」を開き、木祖村で採れる季節の野菜を販売している。木祖産物の取り扱いには市内で展開する宅配サービス会社でも始まり、木曾産の食品と木工製品、漆器などの販路を広げている。また、木祖村で採取したドングリを名古屋の里親が育て、芽が出た苗を故郷の木祖村に植樹する活動も行われている。一宮市では木祖村の野菜を販売する日曜朝市が好評で、夏には市民が親子で木祖村を訪れ、木曾川源流の森林を歩くプログラムが好評だ。
木祖村の人口は約3,560人、全国の農山村が共有する少子高齢化はここでも著しい。この状況で村を活性化し、周辺自然の保全を計ることは容易ではない。木曾川の上下流で始まったこれら一連の動きは、下流域の人的パワーが上流域の持続可能な森林管理を、上流の豊かな自然が下流の豊かな暮らしを支える一つのモデルケースである。森と多くの川に恵まれた日本だからこそ、これからの広がり期待したい。

お問い合わせ

長野県木曾郡木祖村大字菰原1191-1
木祖村役場商工観光課
TEL..0264-36-2001
FAX..0264-36-3344

エコラム ①

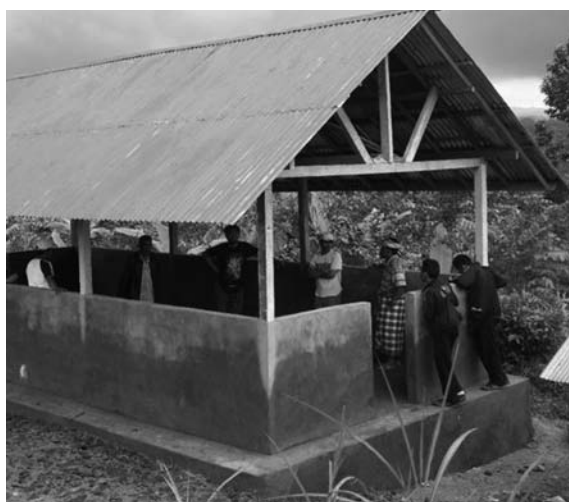
熱帯魚だって里親が欲しい

川崎市多摩区では、おさかなポストというものがちょっとした話題になっている。育てられなくなった、もしくは多摩川などで捕獲された外来種が近隣の河川や池に放されないように引き取る水槽のことだ。語弊を恐れずに言うと、赤ちゃんポストの外来魚版である。会員になれば、里親として引き取ることができるという。集まった魚はグッピー、エンゼルフィッシュ、ピラニアなど200種にも及ぶ勢い。さすがは多摩川、タマゾン川の名に恥じない多様性である。外来種とは言え、魚たちに罪はない。熱帯魚をお店で買うくらいなら、一度、訪れてみてはどうだろう。

特集 森を生きる



植林に出かけるトラック



助成金による堆肥作成小屋建設

深まる企業・研究機関との連携
本財団は、近年、観光開発や家具材住宅材への無計画な材木取得の影響で、森林減少（主に劣化）とその水源環境の悪化が問題となっているバリ島を活動拠点としている。現地では、伐採後の土地は、放置がほとんどであり、また地元民の産業として無計画にミカンおよびコーヒー栽培が行われ、土地が痩せてしまっている。現在、公益財団法人トヨタ財団、公益信託地球環境日本基金、国土緑化推進機構の緑の募金の3団体による助成活動資金を得て、アグロフォレストリー事業を現地村民と一緒に実践している。また、企業の

CSR活動として(株)NTTデータと共同した植林活動を行っている。さらに、現地行政と500ヘクタールに及ぶプロジェクトを連携構築中である。国家と現地行政およびトップレベルの大学研究者と連携し、専門的かつ施策実現可能な形で進めている。住民が共同して手法を学び、地元民の現金収入の確実な機会が増やし、生物多様性の高い森林を育て、環境保全と地域経済の活性化の両方の発展のために、苦慮試行している最中である。



植林に出かける前の朝礼

行えない。また、経済発展で富を得る国や企業の独占的なプランテーション利用によって、共有林として利用していた森も失い、生活が追われている場所も多くある。伝統的な焼き畑農法は、森林破壊を招くと注意喚起されているものの、現地住民の生活をまもる程度の焼き畑は、これらに比べれば熱帯雨林のたくましい短期的な再生力により、さほど深刻ではなかった。だが現在、現地住民は生活の糧を得るための利用可能な森を無くし、自給自足と金銭収入の道が途絶えてしまいつつある。彼らはどうすれば生きていけるのであろう。彼らに必要とされることは、例えば1つの方法として、インドネシア政府と先進国が手を取り合った、生活救済と産業復興策の単なる一時的な金銭的な援助ではなく、自立した生活を営む基盤をつくる方法が導かれることが有効であろう。

林と農が共生
「アグロフォレストリー」

アグロフォレストリー(コミュニティフォレストとも呼ばれる)とは、住民参加型の林業や農業の複合産業により、地域経済の安定と自然・生物多様性の保全

を両立する手法である。荒廃した森林伐採地(塩害については他の機会で説明したい)に、地元在来種を対象としながら住民の金銭収入につながる果樹、木材となる種を混ぜて多様性を意識しながら植栽する。これらが幼樹のうちには、地面部への太陽光がのぞめる事により、ここではキャベツや唐辛子、落花生などの農業を同時に行う。樹木からの商品作物が得られるまでは、地面部の農業作物から収入を得る。またこれと同時に、崩壊した住民間のコミュニティを取り戻し、役割分担、相互扶助、収入の配分などについてルールをつくり、自治を行うことを導く。さらに、多様な植物が成長するにつれ、鳥類、昆虫などが生息する様になり、生物多様性が高まっていく。

REDD+森林の減少・劣化を防止することによる森林からの温室効果ガスの排出削減(REDD)に、植林事業や森林保全(適切な森林管理による劣化の防止)等による炭素ストックの積極的な増加を加えた拡張概念)のなかで、それを実現する手法として、アグロフォレストリーは1つの候補として適用される。先進国に対してもメリットがあることが、これらを持続的に実現可能な鍵となる。ただ、その実現性や認定の方法などについては、先日行われた生物多様性条約第10回締約国会議COP10および気候変動枠組条約締約国会議COP16で現在検討がなされている(2010年11月25日現在)。



バリ島絶滅危惧種カムリシロムク

タッフ募集のお知らせ!!

一緒に考え、活動してくれる
スタッフを募集しています

活動内容は、生物多様性の保全(アグロフォレストリーや植林)、環境コミュニケーション(現地の学校への環境教育)、国際協力/文化交流(環境問題学習のための学生交換やエコツアの実施)などです。当財団は、現地住民と密に連携し、彼らの視点と共に、インドネシアの環境問題と将来について真剣に考えるサポーターをお待ちしています。

※本財団の現地スタッフは国立高校の先生を主としています。

お問い合わせ

お問い合わせ
インドネシア政府認可環境財団
Bali Biodiversitas
(バリ バイオダイバーシタス)
Mail: bali.biodiversitas@gmail.com
(日本窓口兼)
HP: http://www.langit-bali.com/bali_biodiversitas/